

子どもがお弁当を作る
「弁当の日」から生まれるもの！

お弁当 のチカラ



人には誰もお弁当の思い出がありません。お弁当の思い出が色濃く記憶に残るのは、作った人の思いがこもっているからに他なりません。そうした「弁当力」が見直される中、子どもたちが自分だけでお弁当を作る「弁当の日」が注目されています。

子どもたちの 自信と笑顔を生む「弁当の日」

「お弁当を自分で作る」
言葉で言うとは単純なその体験が、今、子どもたちに大きな影響を与えています。

平成13年、香川県の滝宮小学校で竹下和男校長（当時）が始めた「弁当の日」。買い出しも、調理も、弁当箱に詰めるのも、片付けも、保護者や先生が手を出さずに、子どもだけで行うというのが基本ルール。

弁当の日は、子どもたちに「自分だけでできた」という自信と、笑顔をもたらすすてきな取り組みとして注目されています。

小・中学校を中心に広がり続け、

今年5月現在、全国で1800校を超える学校が実施しています（ホームページ「子どもが作る弁当の日応援ページ」<http://bentounohi.kids.coocan.jp/>による）。

桂川小学校、桂川東小学校ではそれぞれ平成26年度・27年度から、桂川中学校では平成23年度からの取り組みを実施しています。

お弁当で子どもが変わり 家族が変わる

弁当の日応援団として、弁当の日を推奨している九州大学農学部助教の佐藤剛史さんは、弁当の日がもたらすチカラについて次のように話します。

「弁当の日で子どもたちが学ぶ

からあげを前日から漬けておきました。



白ごはんではなく、好物のオムライスに挑戦しました！



私が作った

お弁当 自慢

桂川中学校の「弁当の日」。1年生の各クラスで一番早起きだった生徒にお弁当のアピールポイントを聞きました。